

四国経済新聞

【「地銀今昔」記事より感じること】

高知新聞のコラム記事には、「高知県の地方銀行は、いずれ立ちゆかなくなる。」と書いてある。

今二行あるが、「人口が少なく経済が縮む本県では一行の存在すら難しい」と突き放している。金融庁の有識者会議が公表した。

これは何を意味しているかという、銀行が立ちゆかなくなると言うことは、お金を借りる企業等は今よりも極端に減少する（50%以下に減少）ことを言っているのだ。

企業がなくなれば、働く人々は困る。つまり、高知では就職が出来なくなるのだ。

これでは益々高知県は少子高齢化が進む。高知県の半分以上の社会人が失業する。

この記事を見た知事や市町村長はどのように感じたか？気になるところである。

< 龍馬社長大学 学長 奴田原 惇郎（ぬたはら・あつお） >